

十勝農業の高い生産性を支える農業農村整備

～ 日本一の十勝農業が成立する条件 ～

十勝は、日本最大の畑作・酪農の産地です。

1年間の農業産出額は2500億円を超え、食品加工業の発展の基礎となり、十勝の経済の根幹をなしています。

また、十勝農業の生産性は、農業大国といわれるオーストラリアやブラジル、アメリカ合衆国などに匹敵するほど優れています。

しかしながら、十勝の大地は最初から農業に適していたわけではありません。

自然は本来、人間に都合良くはできていないのです。

十勝平野は、洪水の度に流路を変える大小河川が運んできた土砂の上に十勝岳や樽前山などから噴出した火山灰が厚く降り積もって、長年にわたり形づくられてきましたが、元来、排水不良、酸性土壌、石が多い、泥炭土、粘土質など、耕作に適さず、改良が必要な土地がほとんどだったのです。

また、機械化された効率的な農業を営むためには、地形の凹凸をならしたり川の流れを変えたりして農地の区画を整え、農道を整備しなくてはなりませんでした。

明治時代に開拓の鋤が入れられた後、戦前、豆類の投機的な栽培などで一時の好景気に沸いたこともありましたが、たびたび冷害にあい、農業生産が安定することはありませんでした。

十勝の農業が飛躍的に発展したのは、戦後、本格的な土地改良事業が実施されるようになってからのことです。

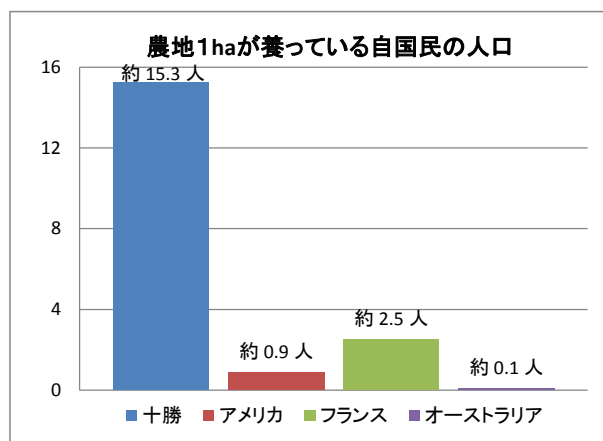
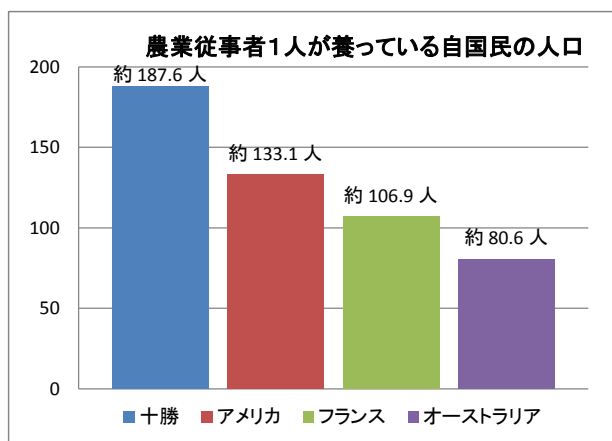
農家の方々のたゆみない努力に加え、機械化などの設備投資、営農技術の向上、品種の開発など、様々な要因がありますが、それらを可能とする土地改良があって初めて、生産性の高い十勝の農業が確立されたのです。

農業農村整備事業は、土地改良だけでなく、防災や生活環境整備なども含め、住みやすい農村づくりに貢献してきました。

私たちはこれからも、農業を基幹として発展し続ける十勝を基盤から支える、農業農村整備事業を推進してまいります。

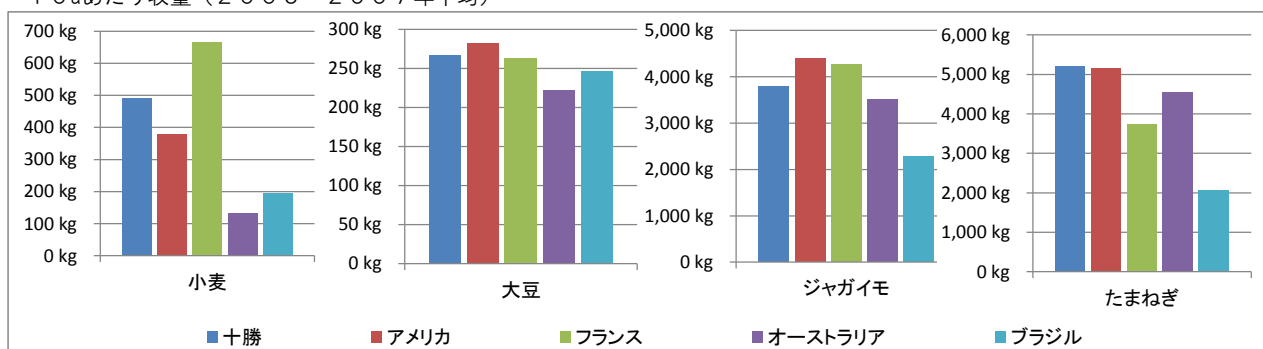
十勝農業の高い生産性

〔 諸外国との比較 〕



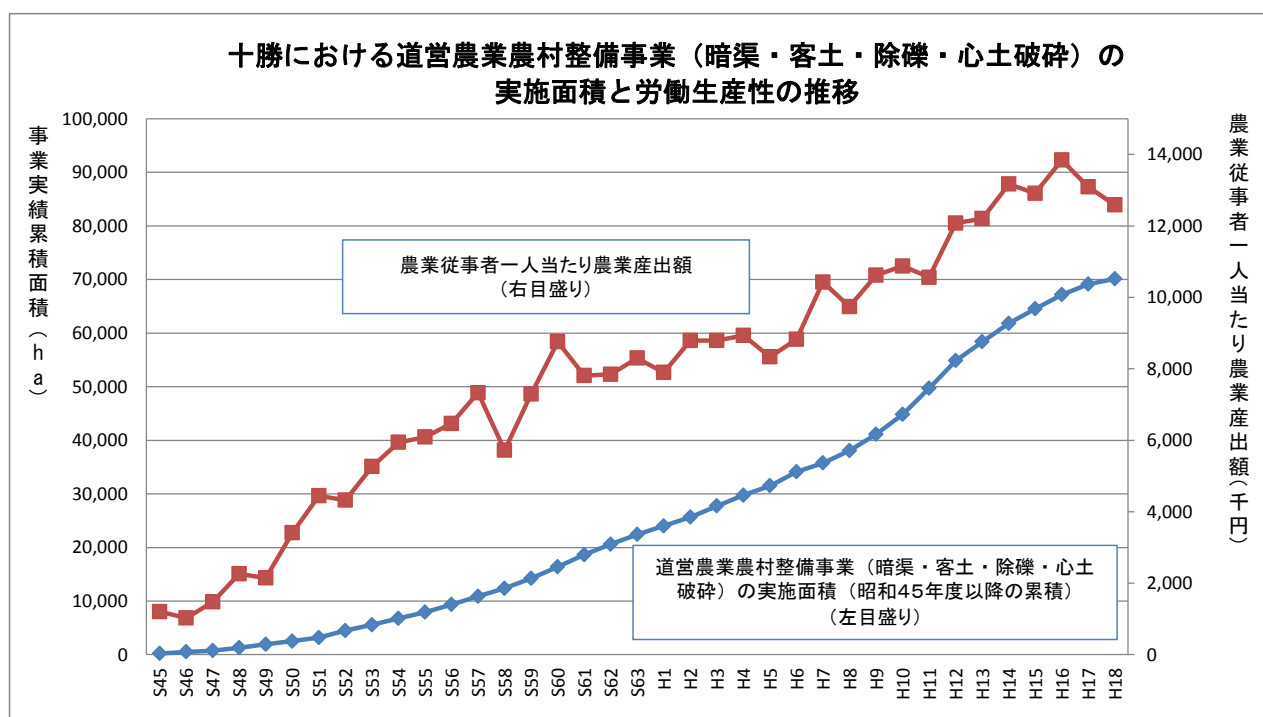
(食料自給率(カロリーベース)【農林水産省試算】を基に算出)

10aあたり収量(2005~2007年平均)



※ 十勝は、農業大国と呼ばれる諸国と比較しても遜色ない土地生産性を有しています。

〔 農業農村整備事業の実施と生産性の向上 〕



※ 十勝農業の労働生産性(農業従事者一人当たり農業産出額)は、昭和40年代と比較して10倍以上になりました。

※ おおまかに言えば、1人の人が、機械などを使って、10人分働けるようになったのです。